

## 杉谷 昭子 (ピアノ)

Pianist *Shoko SUGITANI*

矢田映子、井口秋子に師事して東京芸術大学卒業後ドイツに留学。デートレフ・クラウス、エリーザ・ハンゼン、ブルーノ・レオナルド・ゲルバー、アレクシス・ワイセンベルク、クラウディオ・アラウ等に師事。

1971年エッセン・folkヴァングコンクール優勝。72年マリア・カナルス国際コンクール2位。ミラノ音楽祭出演。73年ヴィオッティ国際コンクール銀賞。76年ケルン音楽大学大学院修了。旧西独演奏家国家試験で1位を獲得したブラームスのピアノ協奏曲第1番が大手マネージャーに認められ、同年デュッセルドルフでヨーロッパデビュー。77年独シュヴァン社で初のソロアルバムをリリース。ロンドン・ウィグモアホール及びロイヤル・アルバートホール、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス、ベルリン・シャオシュピールハウス、シュトゥットガルト・リーダーハレ、サントリーホール等で、ロンドン新交響楽団、ベルリン交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、フランツ・リスト室内管弦楽団、ヴェルテンベルク室内管弦楽団、モスクワ室内管弦楽団、プラハ放送交響楽団、フィルハーモニア・フンガリカ、ワルシャワ国立フィルハーモニー、チェコ・フィル六重奏団、ゲヴァントハウス八重奏団、ゲヴァントハウス弦楽四重奏団、ベルリンフィル弦楽五重奏団、ザイフェルト弦楽四重奏団、



アマールコルド・クワルテット・ベルリン、NHK 交響楽団、新日本フィルハーモニー管弦楽団等と共演。また、クララ・シューマン国際ピアノコンクールの審査員をアルゲリッチ、ワイセンベルク、アシュケナージ等と並んで歴任するなど、その活躍はコンサートピアニストにとどまらず、ピアノ教育の最前線にも及び国際的に広がっている。1984年リリースのブラームス・ピアノ独奏曲全集、95年のベルリン交響楽団とのベートーヴェン・ピアノ協奏曲全集（ヴァイオリン協奏曲のピアノ版を含む）は、ともに女流としては世界初の快挙として記憶される。クララ&ロベルト・シューマンピアノ協奏曲、ベートーヴェン / 3大ピアノソナタなど、国内外でのCDリリースも多く、近年ではポリグラムより珠玉の名曲選《カタリカタリ》を発売し、いまだにロングセラーを続けている。98年には演奏活動30周年記念の年にあたり、全国縦断の記念コンサートを催すかわら、ポーランド国立放送交響楽団とモーツァルトのピアノ協奏曲のCD制作。ベートーヴェン・ピアノソナタ連続演奏とそのレコーディングも完成し、その精力的な演奏活動は多くの識者の注目を浴びながら、現在に至っている。

2001年12月ウィーン楽友協会大ホールにて『熱情』ソナタを、2002年11月には東京オペラシティホールにてカジミエシ・コルド指揮ワルシャワ国立フィルとベートーヴェン・ピアノ協奏曲第5番《皇帝》を弾き好評を得る。また、シューマン音楽祭でベルリオーズ作曲 / リスト編曲《幻想交響曲》を弾き世界的な音楽学者並びに評論家のヨアヒム・カイザーやマルタ・アルゲリッチから賞賛された。ライプツィヒ・ゲヴァントハウス室内楽定期演奏会には定期的に招聘され、またウィーン・フィルやベルリン・フィルのトップメンバーと室内楽の夕べを各地で展開。2008年演奏活動40周年を迎えた。2008年大晦日、東京オペラシティホールにて日本を代表する16人のピアニストによるベートーヴェン：ピアノソナタ全曲演奏会で「葬送」「幻想」ソナタを演奏。2009年3月、珠玉のピアノ名曲選 Vol.2「誰も寝てはならぬ」をリリース、発売記念リサイタルを各地で行った。10月にはベルリンフィルハーモニー弦楽五重奏団とシュベルト『鱒』を共演。2010年より『ドイツ音楽10年の旅路』を開始。同年12月にはライプツィヒ・ゲヴァントハウス弦楽四重奏団と共演。2011年3月、CD「ベートーヴェン：ディアベリ変奏曲」をリリース。日本を代表するピアニストの一人であるとともに国際的にも高く評価されている。